

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

静かに行き詰まってみる

聖宣神学院院長 河村 従彦



「そよ風の吹くころ……、神である主は、人と呼びかけ、彼に言われた。『あなたはどこにいるのか』」

（創世記三・8～9）

創世記三章はわたしたち人間がどうしてこうなのかを教えてくださいの貴重な資料です。人間が善悪の知識の木に手をのびた出来事は、それまで善悪の判断は神さまがしておられたのが、「それは自分でやります」と宣言した「善悪の判断獲得宣言」でした。

最初はバツと目が開かれたような気がしました。しかし人間は、一つのことを引き受けるようになります。「いる」世界から、疲れを避けることができない「やる」世界に入ったということです。存在の祝福を忘れ、「やる」ことで勝負するようになり、出エジプトで神さまから十のことは授かって、神さまの恵みを「やる」基準としてしか理解できなくなりました。

「こんなに頑張ってきたのに」。怠けていたわけではありません。祈りが足りなかったのでも、学びが足りなかったのでも、福音を伝える工夫や熱意が足りなかったのでも、対象を絞った伝道が足りなかったのでも、当初の信仰から離れてしまったのでもないと思います。できることはやり尽くして、そして「今」です。

見た目がうまく行かなければ、方法を見直し、研鑽を重ねる方向に行きますが、わたしたちは今まで「やらなきゃ」をくり返し過ぎました。「やる」ことでどうにかなると思っているのであれば、神さまの前に心底行き詰まっていけないでしょう。やる分だけさらに疲れ、同じことのくり返しになりそうな気がします。

しかし違う意味で、「本当には行き詰まっていない」という見方もできます。だれが音頭を取ったのでもありません。今までになかった信徒の方のご活躍、福音を伝える風景は伝道会を企画するなどのプロジェクト型から地域に出て行く現場密着型に徐々に移行し、牧師人生も行き付けだけだったのが生涯後半への配慮がなされ、人とのつながりとか弱さの受け止めとか、バツとしないのに福音の本質として欠かせない点に視線が向きつつあります。それらの動きを神さまの歯車ととれば、今の時代、結構悪くないとも思うのです。神さまの歯車は一度動き出すとだれも止められない、これもわたしたちが見てきた厳肅な風景です。

「あなたはどこに『いる』のか」。「あなたは何を『やって』いるのか」ではありません。イエスさまの視線は「いる」ことに注がれている、ホッとひと息「いる」恵みです。「どこかシュッとしているけど、芯の部分はあったかい」と、弱さへの感性がさりげなくあったり、またイエスさまのものをほんのり感じさせる信仰のスタンスは、一度「善悪の判断獲得宣言」をし、自分でやってみて、そしてそよ風の吹くころ、「あなたはどこにいるのか」という神さまの暖かい視線を感じ取った涙の経験があるということではないかと思えます。

行き詰まりは自分からやるものではなく、恵みの結果です。問題は、自分が見えていなくて、行き詰まっている現実気づかないというところにあるのでしょうか。行き詰まってしまったのなら、あえて「静かに行き詰まってみる」のもアリかもしれません。

目次

- 静かに行き詰まってみる……河村従彦……1
- 宣教聖日、関東聖化大会、教育局運営委員会……2
- JEA宣教フォーラム、青年伝道会議、静岡聖会……3
- 海外トピックス、国内教会局、燭台……4
- 関東南ブロック近況、スクーリング報告……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

宣教聖日のご案内

11月は世界宣教の月 目を宣教地に向けよう



世界宣教局 梅田登志枝

「主は、……だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです」(Ⅱペテロ三章9節)。

教団では、11月を宣教月間と定め、特に世界宣教を強調する月とされています。聖化と世界宣教は、教団創設の当初から、強調され、実践されてきました。聖化と世界宣教は、聖書の強調していることでもあります。

◆宣教聖日礼拝と特別献金

使徒の働き一三章を見ると、アントキオキア教会では主を礼拝している時に、聖霊の語りかけがあり、バルナバとサウロが宣教のために送り出されました。

今年は11月18日が宣教聖日となります。世界宣教についてののみこばを学び、祈る礼拝を持って下さると幸いです。また、礼拝献金の一部を宣教聖日献金として世界宣教局にお届けくださるようお願いいたします。

◆宣教ビデオ

世界宣教局では、例年のように宣教ビデオを作成し、全国の教会にお送りしました。礼拝、組合、祈禱会等で活用くださると感謝です。今年は、ケニア、ザンビアの局長訪問の様子、各宣教地からの報告、宮崎聖輝先生(木更津教会)の宣教メッセージなどが収められています。宣教ビデオの作成のためには、企画、収録、編集などの労苦がありますが、映像による宣教地報告は効果的だと多くの方々のお声を聞いています。ぜひ宣教ビデオの活用をお願い致します。

◆コイン献金

世界宣教の働きは教会の働きであり、教団、教会が国外に宣教師を派遣しています。一方コイン献金は、大人から子供までどなたでも宣教に直接、貢献できる方法です。コイン献金は、宣教地の実際的な必要のために用いられます。愛の泉プロジェクトとして、神学生や牧師の支援、病院の器具の購入、神学校の備品など、現地の実情を知る宣教師の要請に基づいて支援しています。また、世界宣教局全体の働きのためにも用いさせていただきます。

宣教ビデオと一緒に、来年用のコイン献金のシールを各教会にお送りしますので、来年もご協力をお願いいたします。キリスト教界全体に、また教団にも教会員や牧師の高齢化、献身者の減少の課題があります。けれども、今年も世界宣教が強調され、その重荷が各教会に増し加えられますようにお祈りしています。

2018年JHA聖化大会報告

聖霊に導かれる幸いを パウロ書簡から聖化を学ぶ

王子教会 小林 佳

いつも日本聖化協力会及び各地域の聖化交友会のために尊いお祈りをありがとうございます。

さて、今年も例年にならって10月に全国各地で聖化大会が開催されましたが、関東では14日(日)・16日(火)にかけて、お茶の水クリスチャンセンターで「聖霊に導かれる喜び」というテーマのもと、第33回関東聖化大会が行われました(14日青年大会のみ、会場はホーリネス教団東京中央教会)が、今回は初の試みとして、海外講師ではなく3人の日本人講師をお招きしての開催となりました。

14日は日本ホーリネス教団の宮崎誉先生による青年大会が、また15日は主講師である日本ナザレン教団の石田学先生によるセミナーと聖会が行われました。16日は日本ホーリネス教団の松木従子先生による女性大会と青年委員会主催の学びを深める時がもたれた後、締めくくりとして石田学先生による聖会が行われました。どの先生

方もホーリネスの恵みを豊かに語ってくださると共に、ご自身の尊い証しや深い牧会経験を交えてメッセージを取り次いでくださり、ホーリネスの恵みをより実際的かつ身近に感じたという方々が多くおられ、日本人講師ならではの恵みであったことを思います。

また石田学先生は全ての集会においてパウロの生涯や彼の手紙を取り上げながら、個人的なホーリネス経験からさらに進んで、教会という共同体としてのホーリネス経験が大切であること、ホーリネスを実践することを終始一貫して語っていただきましたが、各地の聖化交友会もまたホーリネスを実践、宣証する共同体であることを改めて強く感じました。

2019年はワールド・ゴスペル・ミッションの前代表をされていたヒューバート・ハリマン先生をお迎えし「聖化と宣教」をテーマにセミナーや聖会をもちます。



教育局運営委員会から

青少年活動の充実を

教育局長 小川宣嗣

教育局では、去る10月15日に本年第2回目の運営委員会を開催し、各部・各課からの報告を持ち寄り協議・祈りの時を持ちました。

教育部信徒教育課では、9月末に持たれた信徒伝道者スクーリングの報告があり、特に新規の受講者が4名興されたことは感謝でした。また生涯学習課では、8月に持たれた若手男性牧師研修会の報告がなされ、少人数ではありますが、それだけ密度の濃い研鑽の時となったことは幸いでした。

青少年部からは、青年課の夏の第6回YS全国大会(改装されたばかりのBTC研修棟での開催)や中高生課の第11回「とにキャン」(聖山キャンプ場)が豊かに祝されたこと、そして参加された青年方の中に、豊かな恵みの業が広がっていること、とにキャンからYSへの繋がりが証しされ、御名を求めました。教会学校課では、レギュラーの働きと共に、CSさんびかの初行・折り返し目次作成などに取り組みつつあることが報告されました。

教育局の活動を覚えての絶えずのお祈りを感じ申し上げます。

JEA 宣教フォーラム

「東海を知る」ために
次の日本伝道会議へ

名古屋教会 内山 勝

で拘束力のない宣教協力が長く継続されて来たことが挙げられました。何か大きな集会をするために協力するというよりは、牧師同士の温かい励まし合いを大切にして来たということでしょう。

2日目には、JEA 宣教研究部門の報告に続き、①福音、②多元社会、③国家、④環境、⑤グローバルイノベーション、⑥ビジネス、⑦共生、⑧青年、の分科会が行われ、それぞれが関心のあるテーマについて学びました。

9月24日(月)～25日(火)、在日大韓基督名古屋教会を会場に、「東海を知る」のテーマのもと、JEA 宣教フォーラムが開催されました。

東海地域宣教協力の歴史について、長らく同地域で伝道牧会に携わって来られた内村撤母耳師(アッセンブリー名古屋神召教会)と河野勇一師(バプテスト教会連合緑キリスト教会)が発題されました。

東京と大阪の中間に位置し、宣教の働きに伸び悩んだ初期の頃の苦勞が偲ばれました。「福音の谷間」と言われる現実の中で、だからこそ教会間協力が必要という自覚のもとで、1980年のグラハム国際大会以降、地域ごとに牧師会が形成され、それが東海宣教会議、東海福音フェロシップ(T.E.F.)へと繋がったという経緯が証しされました。

続いて、パネラーたちが各地区の牧師会の様子を紹介しました。共通する特色として、「ゆるやか



また、1日目夕に、K.G.K. E.C.C.C. の共同企画による青年集会「ミッション&ユニオン」が行われ、10～30代の青年が120名ほど集まり、将来への希望を感じさせるものとなりました。

2023年には、日本伝道会議がこの東海地域を会場に行われることになっています。今回はそのプレ企画として大きな成果をあげました。今後の準備のために主の導きをお祈りください。

日本青年伝道会議 NSD II

神の国マインドに生きる
～次世代へ繋がる道を～

11月22日(木)～24日(土)

JEA 青年委員長 蔦田聡毅

「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」(マルコ 15)

第5回日本伝道会議(札幌大会)を受けて、初めて日本青年伝道会議が開催されたのが2012年の秋。第6回の神戸大会を受けて、今年11月22(木)～24(土)の3日間、「NSD II」が開催されます。これは私たちの教団も加盟しているJEA 青年委員会の主催による「第2回日本青年伝道会議」の略称です。

この教報がお手元に届く頃には、既に当初の申込期限(10月31日)が過ぎ、定員500名が溢れているかもしれません。今原稿を書いている時点で、すでに半数を越えています。もしかしたら滑り込めるかもしれませんが、まだの方は大急ぎでチェックしてみてください。青いパンフレットが各教会に配布されていると思いますが、そこにあるQRコードから案内ページにアクセスできます。申込

受付もすべてWebからになります。パンフレット掲載以上の情報が入っているはずですよ。

昨年5月に各教団・教会の青年宣教指導者が、また今年1月には青年宣教に重荷をもつ超教派団体(K.G.K., E.C.C.C., C.C.C., Y.M.C.A. など14団体)の代表が一堂に会して、研鑽と交わりの輪、次代に欠かせないネットワークの輪を拓けました。YSを代表して吉村師、とにキャンを代表して細田師が参加されました。

その融合として、22日のオープニングは青年宣教サミットを開催します。平日の昼間で、信徒方は中々集まり難い時間ですが、先の教団・教派の青年指導者と、超教派団体の会合です。教団の青年部の先生方や、青年宣教に関心ある方々には垂涎の集まりです。その晩から青年大会、翌23日は祝日で終日大会プログラム、最終24日は年代別に分かれ、教団・教派の壁を横に広く乗り越えて、神の国の広がり、青年が自ら体感する日になります。

ぜひこのために祈り、献げ、特に青年を励まして送り出してください。



静岡聖会の報告

小平牧生先生を迎えて
主の足跡に従う
聖き歩み

島田教会 浜田耕三

澄み切った秋晴れのもと10月7～8日にかけて、静岡聖会が磐田グランドホテルにて開催されました。総出席者は144名でした。

講師の小平牧生師(兄弟団西宮教会)より1ペテロ一章15節を中心にメッセージが語られました。

▽永遠の嗣業に与っているゆえの喜び(聖会I)。▽主の足跡に従う聖き歩み(聖会II)。▽再臨を遅らせておられる主の聖旨と、払われた代価への応答としての献身(宣教会)。宣教会では挙手決心者も起こされ、それぞれが主への応答をもって新たな踏み出しを致しました。



国内教会局から

教会建設の務めに
宣教聖日の月



牧師になりたてのころに、当時の国外局の先生に、なぜ11月に宣教聖日が定められたのかと伺ったことがあります。お返事は意外にも「他の月はそれぞれ記念日等で埋まっていたから」というものでした。少々拍子

抜け致しましたが、翻って考えれば、宣教を覚えるのに何か特別な理由はいらないということだと受け止めております。聖書の中にも居ても立ってもいられず、主のみわざに押し出される人々が描かれています。エステルは、同胞の滅亡を前にして我慢

できないうと訴え(エステル八・6)、預言者ミカは、

トルコで1500年前の教会跡を発見
トルコ北西部トラキア地方エディルネ県で行われているシナンキョイ古代定住地発掘調査で、六世紀に建設されたビザンツ時代の教会が発掘されたこと、『トルコ通信』が報じた。

シナンキョイ古代定住地は3千年前にさかのぼる、トラキア最古の定住地にある遺跡で、トラキア大学美術史科とエディルネ博物館の協力で発掘作業が続けられている。

進められている作業の中で、建設が紀元500年代にさかのぼるトラキア初の教会の遺物が発見された。教会の土台が発掘され、建物の床の石材も損なわれることなく発掘されたという。

掘した。教会での発掘作業は今後も続けられる」と語った。

インドネシア・スマトラ島でキリスト教会を突然閉鎖
米週刊メディア「ニューズウ



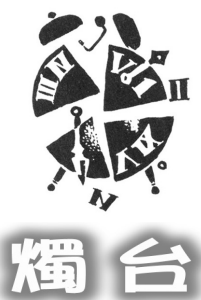
海外トピックス

ている。当時ハドリアノポリスと呼ばれていたエディルネのあと、地域最大の都市であった。」と述べ、さらに「この中で教会を発掘したことは注目に値する。床のレンガと共に土台までこの教会を発

イーク』によると、ジャンピ州コタバル市リンカル・バラット通りにあるメソジスト教会が9月27日、地元行政当局の係官によって封鎖され「閉鎖」され、今後、教会で宗教行事、集会などを行うことも禁止された。

地元行政当局は、同教会は宗教施設としての許可を得ておらず、長年、無許可施設としてキリスト教の宗教活動が行われていたという。そこに「周辺住民からの無許可施設であるとの苦情が高まっていった」ことによる封鎖と説明している。

コタバル市には同教会を含めて3か所の教会があるが、いずれの教会に対しても、周辺住民だとするイスラム教徒の閉鎖を求める運動が起きており、今回の封鎖前には「3教会の閉鎖を求める1000人集会をモスク(イスラム教の宗教施設)で開催する」と呼びかける文書が配布されていたという。(平瀬聡樹)

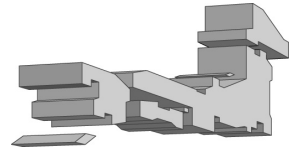


留守番の恵み

◆私の教会では、副牧の私が聖日に礼拝や伝道会の説教をすることは普段はまずありません。ところが今年には秋に主任牧師が他教会での奉仕のために聖日を二週続けて留守にすることになりました。その留守した事情で、一週目は礼拝と伝道会の当務を、二週目は伝道会だけを私が担当することになりました。◆まずは祈りの準備です。自分も祈り、教会の奉仕ですから、教会の皆さんにも共に祈っていたべきです。◆私はみことばに関わる奉仕は何もしていないのかと問われれば、そうでもなく、毎週水曜日には信徒の皆さんと共に救いを目的とした女性集会を持ち、そこでの聖書の学びの責任をかれこれ三十年近く持っています。CSその他もあります。ささやかな奉仕ではあっても、これらは私には十分重く、落ち込むことでもあります。◆さて、礼拝ではガラテヤ人への手紙五章を導かれていたので、まずは一章から読み始めました。註解書やパウロに関する参考書なども並行して読んでいくうちに「キリストが私のうちに生きておられる」とある二章あたり

から、心酔とか陶醉ということ私は好まないのですが、そのような気持ちになり、聖書に引き込まれるというのでしょうか、ガラテヤ人への手紙はなんと素晴らしいのだろうと夢中になりました。このような経験は初めてです。◆もともと御霊の実について語るつもりでしたが、学んでいくうちに、「救われた後の歩み」に重点を置くように路線を変更させられました。つまりは救われた私が「御霊によって歩み、導かれ、進む」という実践の世界を継続し、成熟を指すということ。◆整理して礼拝では語ったものの、それが皆さんにどれほど伝わったかはわかりません。私が私ひとりに語り、私ひとりが扱われ、恵まれたのかもしれません。いえ、たったお一人ですが感想を寄せてくれた姉妹がいたので、二人になるのでしょうか。二回の伝道会は「十字架上の七言」から一言ずつを取り上げました。◆こうして滅多にない留守番を終え、翌水曜日の朝は、聖会と東北教区会出席のため秋晴れの中、郡山から大湊を目指し車中の人となったのでした。(久保以津子)

国内教会局 スクエア



関東南ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー
田中 進

各教区主事からの報告が届いています。「祈りのネットワーク」に加えてお祈りください。

◆東関東教区(宮崎聖輝主事)

8月7日、8日、第17回東関東聖会が、成田ビューホテルにて開催されました。今回は少し都心から離れた開催となりました。講師は基督兄弟団の西宮教会牧師小平牧生先生を迎え、幸いなメッセージが取り次がれ、総出席者は102名でした。

行徳駅前(旧・新浜)教会の会堂移転が完了しています。今年春から本格的な移転作業が進められ、8月26日には旧会堂での最終礼拝、9月2日には新会堂での第一礼拝が執り行われました。また今年、自給教会としてもスタートしており、兼牧体制の中において霊的にも経済的にも必要が満たされますようにお祈り下さい。松戸教会では現在、会堂床の湿気対策を検討中です。また市川教会では外壁塗装及び補修工事が進められています。安食教会は、故・長谷美代子先生百天後の歩みが続いています。

島田先生の牧会に加え、月の第一週には竿代照夫先生(協力牧師)による聖餐礼拝を行っています。11月23日、東関東教区は、市川サンシティにおいて役員研修会を実施致します。講師はBAの田中進先生がたてられており、テキストは人権委員会の「聖なる教会を旨として」を用います。良き恵みの機会、気づきの機会となりますようお祈り下さい。

◆東京教区(岩上敬人主事)

8月14日、15日に林間聖会(神奈川教区と共催)が久しぶりに御殿場・東山荘で開催、講師に東京フリーメソジスト教団の宮川浩二先生で「互いに愛し合う」をテーマに恵み豊かな聖会となりました。立川教会では今年、牧師の交代がありました。新任の先生を中心に教会の働きが進められています。深川教会では臨時教会総会を行い、隣接地購入を決定しました。9月にすべての手続きが滞りなく行われ無事に土地を取得しました。今後の会堂建設のために祈りが積み重ねられています。また献身者が興さ

れBTCの聴講を開始されました。10月は教区の諸教会で秋の特別集會が実施され、救霊の働きが進められています。また健康の課題と戦いながら奉仕をしておられる先生方もおられます。どうぞお祈りください。

◆神奈川教区(徳竹信雄主事)

今年度は、神学院教会で牧師の異動があり、河村從彦先生が神学院院長と神学院教会の牧師を兼任される任命を受けられました。多忙なかにも懸命に労されています。また、高木暁子先生が神学院教会に任命を受けられ感謝でした。横浜教会では伝道サポートシステムを活用して救霊の働きに力を注いでいます。加えて教会周辺のめまぐるしい発展を先取りして看板ライト照明を新調しました。クリスマス・コンサートに取り組んでいます。湘南中央教会では、徳竹憲子先生が心臓の手術を越えて回復の途上にあります。高津教会は、藤本満先生が立川教会を兼任し多忙な中にあります。戸塚雅昭先生は静岡教会の責任を担っておられ、そのため高津教会全体で支援の体制を組んでいます。桂町教会は、矢木良雄先生がさまざまな責任を担って多忙な中にあります。クリスマス特別集會の準備を進めています。葦山教会は、大山郁夫先生のご健康も強められ、今年度は特別伝道礼拝を重ね、伝道に邁進しています。クリスマスには竿代照夫先生をお迎えします。

9月25日(月)〜26日(火)に聖宣神学院の新しい研修棟で信徒伝道者のスクーリングがありました。12名の方が参加され幸いな研修の時となりました。一日目は、戸塚雅昭師によって、「聖書読解と説教準備」をテーマに2時間の講義と分かち合いの時間がありました。聖書を文脈で読み、そこから醸し出される神の恵みを、感激を持って捉える幸いが語られました。夜は、田中進師が「信徒伝道者に期待すること」をテーマに講演がありました。モーセが破れの狭間に立ったように、信徒伝道者の方々が、様々な破れに立つており、なしていくことの大切さを中心に語られました。二日目は2つのグループに分かれての説教演習。受講者はよく祈り、準備された説教を発表し、それについて分かち合いました。「教会が送り出してくださっている祈りを強く感じる」と、話しておられました。

信徒伝道者スクーリング……

信徒伝道者に期待される 説教と牧会を学ぶ



信徒教育課 野田 禎

教会の要請により、牧師と共に祈り、同じ心、同じビジョンをもって主のご用、宣教の働きに立つ信徒伝道者が必要になっていきます。今年は新しく4人の方が信徒伝道者養成課程で学ばれています。学びはインターネットにより自分のペースで学ぶことができます。信徒伝道者の志が与えられたならば、牧師と祈ってみてはいかがでしょうか。教団のホームページに案内、応募要項がでています。



巻頭言

宣教報告の大切さ



世界宣教局
梅田 昇

今月は、宣教月間であり、宣教について報告を聞き、祈る月となっています。例年のように今年も宣教ビデオが作成され、各教会に送られ、宣教祈祷会や今月の宣教礼拝で活用くださる教会も多い



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

ことでしょうか。
一、教会から送り出されたパウロとバルナバ
彼らはアンテオキアの教会から遣わされて宣教旅行に出発しました。キプロス島に渡り、イコン、リステラ、デルベに行き、様々な困難を乗り越えつつ、福音を伝えたのです。弟子たちの心を強め、信仰にしっかりと留まり続けるように語ったのです。
二、教会に戻って行った彼ら
パウロとバルナバは、神の恵みに送り出されたアンテオケ教会に戻って行ったのです。当時の旅は今と比べて大変厳しいもので、交通手段が整っていただけではありません。長時間道なき道を旅する

こともあったことでしょうか。体調を壊し病気になることもあったに違いありません。
宣教師が健康調整、また霊的な調整のために帰国をするのは多くの宣教団体でも義務付けられています。肉体的に、精神的に、霊的にリフレッシュされて、宣教地に再赴任するのです。報告帰国の時期が余りに忙し過ぎることも避けなければなりません。

三、教会に報告した彼ら

パウロとバルナバは、アンテオキアの教会に戻り、人々を集め、神様がなされたすべてのわざについて報告したのです。「神が自分たちとともに働いて行なわれたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した」(使徒の働き一四章29節)のです。送り出された彼らには、報告の責任があったと言えましょう。宣教師は派遣された場所で、神様がどのような働きをしてくださったかを定期的に報告しています。

宣教ビデオを通し、教報の「広げた翼」、ホームページを通して、宣教師の報告を聞き、理解し、更に宣教のために祈り支援し続ける宣教的教会を目指して労させて頂きたいものです。



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬*2018年9月30日

香港は、今年の国慶節(中国の建国記念日)を前にしています。香港の休みは一日だけですが、大陸の方は、実質大体1週間と続きます。香港と大陸とを出入りして戸惑うことの一つは、休日の微妙な違いです。1997年7月1日に英国から中国に返還され21年が立つわけですが、返還の初めから休日は違います。香港はイースターやクリスマス休日がそのまま残されましたが、大陸にはありません。先週の中秋節の休日も大陸は中秋節当日ですが、香港の方は、当日は仕事を早めに切り上げ家族での食事があり、次の日が休日です。もちろん休日だけではなくて「自由」という面においても大きな違いがあります。
今年香港にも大きな台風が直撃し、ちょうど日曜日(9月16日)に当たったために、各自で礼拝を捧げました。香港は狭いので、台風警戒シグナルが8になると全交通が停まってしまいます。今回は

最高の10まで上がりました。台風22号ですが、香港では台風の名前がつけられて呼ばれています。10月ぐらいいまだ、台風シーズンですが、毎週毎週の礼拝が守られまますように祈りながら進んでおります。
今年の夏は、2012年の夏に日本に報告で3か月間帰国して以来、久しぶりに日本の夏期聖会に参加が許されました。ちょうど台風が日本に来ていて、19号と20号の間でしたが日本に滞在できませんでした。香港に戻ってからは21号が近畿地方に上陸し大きな被害をもたらしました。その後、香港に来たのが22号でした。阿蘇での夏期聖会は2泊3日のゆつたりとしたもので、早天祈祷会や聖会や分科会もあり、最後の派遣礼拝でスライドを使い報告をさせて頂きました。学院の時、別府教会に夏期実習に派遣されましたが、その時と同じ場所、今年48回目となる聖会でした。教区の先生方とも交わりを頂き、多くの励ましを受けました。夏期実習の時のことを覚えていてくださり、顔と顔を合わせることも大切さを強く感じました。聖会后、台風のため予定が狂い26日の礼拝は神戸教会で捧げることが許され、ちょうど伝道礼拝の日でしたので、救いの証しを久しぶりにさせていただき、もう一度信仰の原点に戻された思いを与えられました。引き続き今年の秋、そしてクリスマスに向かう働きのために祈りいただければ感謝です。■



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2018年10月4日

9月のザンビアは暑さが増し、乾燥した夏が始まります。朝晩は少しひやっとしますが、日中は強い日差しで気温も上がります。本来に乾燥が強く、ボディークリームなしでは皮膚が割れてきます。クリニックでは下痢と嘔吐の風邪が流行し、多くの子ども、大人が治療を求め外来にきていました。軽症のケースがほとんどですが、中には重症ケースもあり、病院搬送することもありました。乾季のために、水が汚染しやすく、また乾燥してウィルスが蔓延しやすいことが原因だと思われまます。違うケースですが、具合の悪い子どもが外来に連れてこられ様子を見ていく間に病態が急変し、命を失うという悲しい体験をしました。原因は明確にはわかりませんが、重症の貧血状態でした。改めて発展途上国の現実を見た気がしました。日々、上からの知恵と御助け、御守りをと祈っています。
ある産婦がお産のためにクリ

ニックにきました。初産婦だと妊婦検診カードに記載されていましたが、実は2度目の出産であり、最初の子は死産であったため子どもがいらないということでした。今回、お産の経過は順調でしたが、本人や家族にとっては前回のこともあって、不安を感じ、緊張しているのが顔つきから伝わって来ました。牧師先生が訪室し、安産のために祈りをしました。その約2時間後に元気な女の子が誕生しました。出産を終え、我が子を胸に抱きながら「神様感謝します。ハレルヤ」と声をあげて喜び、安心した姿がとても印象的でした。
電気のメーターボックスが各家庭、各施設に設置されることになりました。今までコミュニティ単位で電気が支払われていたものが、メーターが各所につくことでそれぞれの使用量にあった支払いがなされるようになります。感謝なことに宣教師館にも無事に設置されました。クリニックにも設置されました。プリペイド式なのですが区役所の不届きでうまく支払いができません。ユニットが切れ電気が買えず、クリニックは5日間電気がない状態でした。そのような中、夜、お産があり暗闇の中で充電式のライトで照らしながらのお産でした。

25日にもたれた国外局のネット会議参加に合わせて首都ルサカに出てきました。無事に報告ができ、ライブでのコミュニケーションが取れ、恵みの時でした。
9月は重たい課題を通過しましたが、背後に祈られて支えられていることを思い起こして主がおられる、インマヌエルの神を私は信じているのだと、改めて思い励まされました。状況は変わりませんがハレルヤ!ですね。感謝です。
感謝なことに家の周りのフェンスの補強が完成しました。お祈り感謝いたします。宣教師館の残りの工事は予定より遅れています。中でも停電が多くて、大工さんの仕事が進まず大変ですが手動でできることをコツコツ一つずつ進めてくださっているのが本当に感謝です。クワチャ(ザンビアのお金)値下がりのため物の値段が上ががり、車の燃料のディーゼル油がいっぱんに値上がり、1リットル12.01クワチャが14.65クワチャ(約147円)になり大変です。輸出の主力品である銅が値下がりしているからだそうですが、ザンビアの国の経済のためにお祈りをお願いします。



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2018年10月6日



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2018年10月10日

いつも背後にありまして、尊いお祈りと温かいご支援をありがとうございます。台中教会では、聖日礼拝や朝夕の祈禱会に、日本語での聖書の学びを必要とする台湾のクリスチャンたちが継続して集っておられます。また、日台の国際結婚の日本人の奥様がほぼ毎週、休むことなく、集会に集われ、熱心に求道しておられます。御主人や背後の家庭に良き理解が与えられ、受洗にまで導かれるように、祈りつつの歩みです。
今年、台南、台中で愛する主の家族を天に送り、又、義樹が7月13日に、父を天に送ったことなど(背後のお祈りとお励まし)がありとうございました。クリスチャンの死と葬儀について、考えさせられる機会が重なり、9月23日の礼拝後に、「信仰者の学び」シリーズ・第一回目として、具体的な学びの時を持ちました。当初は、関心のある方はいっしょに学びましょうという小さな学び会のつもりでしたが、当日は教会のメンバーをはじめとして、求道の方々や日本語勉強中の方々、休日出勤などで午前の礼拝に出席できなかった愛兄弟も駆けつける形に参加して下さり、その関心の高さに、私たちが驚かされ、大きな励ましを受けました。
台南日本語礼拝では、奉仕スタッフの愛兄弟方が祈りつつ、伝道のための新しいアイデアを次々に提案されています。出席者が互いをよく知るために、ネームカードを首から下げ、声をかけて名前を呼び合うようになりました。またなるべく多くの方と知り合うために、座席の場所を毎回変えたり、集会后に隣の人と挨拶をして解散するようになったり、より良くするための積極的、自発的な提案によって改善されています。
第5日曜日は、「福音礼拝」として守ることになりました。通常の礼拝のプログラムと異なり、メンバーのひとりが少し掘り下げ、時間をかけて信仰の証しをする形態です。30日の第一回目の記念すべき集会には、台南日本語集会の時からのホストメンバーの葉峰志兄が証しの奉仕でした。教会に導かれた経緯、宗教への見解、キリスト教を信じるきっかけとその時、その後の信仰の歩みと家族に起こった主の恵みの奇跡の数々を証しして下さり、「主のなさることはすべて時になつて美しい」とのみことばが心に強くどまっています。

9月は重たい課題を通過しましたが、背後に祈られて支えられていることを思い起こして主がおられる、インマヌエルの神を私は信じているのだと、改めて思い励まされました。状況は変わりませんがハレルヤ!ですね。感謝です。
感謝なことに家の周りのフェンスの補強が完成しました。お祈り感謝いたします。宣教師館の残りの工事は予定より遅れています。中でも停電が多くて、大工さんの仕事が進まず大変ですが手動でできることをコツコツ一つずつ進めてくださっているのが本当に感謝です。クワチャ(ザンビアのお金)値下がりのため物の値段が上ががり、車の燃料のディーゼル油がいっぱんに値上がり、1リットル12.01クワチャが14.65クワチャ(約147円)になり大変です。輸出の主力品である銅が値下がりしているからだそうですが、ザンビアの国の経済のためにお祈りをお願いします。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年10月8日

台風22号のためにお祈り頂き感謝します。得られる情報を集め、台風で吹き飛ばされそうなの(番犬含む)すべてを宣教師館に入れ、念のため食糧も確保し、台風上陸に備えました。台風の中から外れていたものの、豪雨は強く、夜中に2、3度停電し、翌日の夕方まで強い風と雨は続きました。3日目の聖日には晴天となり、礼拝後校内と町の様子を視察しに行きましたが、校内も町の様子も変わらず、河川の水位が普段より高いほか大きな被害は見受けられませんでした。一番被害が大きかったのは台風を中心が通過したバギオを含むベンゲット州でした。今回はバギオ市いくつかの地域が冠水の被害にあい、また土砂崩れで山道が閉鎖されたり、家を失う人々もいました。私たちが住んでいたシニブシップは大きな災害から免れました。引き続き被災された方々のために復興のためにお祈りください。

シンソン市ラバヨグ区のウエスレアン教会で牧会されている先生より連絡が入り日比友好記念礼拝に日本人代表として是非参列して頂きたいという依頼がありました。この記念会は、シンソン市ラバヨグ区近辺の山中で戦死した日本兵の、生存者と親族の方々が巡礼するようになり、記念碑を建てさせてもらってから始まりました。今では高齢化が進み巡礼も困難となってきました。それにもかかわらず、ラバヨグの人たちは日本人が訪問しようがしまいが毎年9月に記念会を催しています。式典の中で、戦中には日本にひどいことをされたが、今はこうして友好関係が築けていること、そしてこれまで受けてきた経済的支援に感謝が表明され、そのことに深い感銘を覚えました。私たちがそれぞれ挨拶する機会が与えられ、謝罪の思いと共に、友好が保たれていることへの感謝を表しました。今月は西マニラ教区とイザベラ教区の教会に大学のプロモーションのために訪問、奉仕をしてきました。西マニラ教区ではサンファン教会というウエスレアン教会の中でも歴史のある教会に遣わされました。この教会は一人の信徒が自分のジプニーの中で聖書研究会を始めたところから始まった教会です。今でも、その開拓に関わられたメンバーが集われ、信仰も受け継がれ老若男女バランスよく70人から80人ほどが毎週出席されています。礼拝後には弟子訓練の一環として求道者へのアプローチについて有志が集まって学んでおられました。



イザベラ教区はロザリスから250キロ、宣教師で6時間ほどの距離にあります。私たちが遣わされたのは常喜の教え子でもあったマーク・ジョン先生が牧会するアリシャ教会でした。夕食はアヒルの料理でもてなしてくださいました。子どもたちはアヒルを絞め、捌いている様子を観察していました。聖日には恭子が学校の報告、案内だけでなく、イロカノ語で特別賛美を歌い会衆を和ませ、常喜の英語の説教も恭子がタガログ語に翻訳したスライドをパワーポイントで会衆の皆さんに見てもらい、理解して頂きました。田舎の小さな教会で結婚し、一生懸命に牧会・伝道に励む若い牧師に励まされながら帰途に着きました。

- 会計報告9月分
宣教献金 一、〇四三、八四一円
月平均 一、九八四、一六二円
- お祈りの課題
フィリピン(豊田)
◆新学年度も半ばが過ぎ、新入生も生活習慣に慣れてきました。サタンの攻撃から守られ訓練と学びに励むことができるように
◆聖書大学での神学教育の奉仕のため。常喜は『タニエル書・黙示録』と『ウエスレー神学』を教えています
◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように
◆子どもたちの学びのために
ザンビア(富澤)
◆国の政治経済が安定するように
◆宣教師館の残りの工事が順調に進むように
◆人手不足の中で職員健康と靈性が守られますように
ザンビア(根廻)
◆区役所のマネージメントのため
◆クリニックでの働きのため
◆電気メーターが設置された感謝
台湾(平瀬)
◆新学年度を迎え、はや一か月台湾の社会・学校の歩みのために
◆台南日本語礼拝、台中教会の奉仕者が主の恵みに支えられ続けるように
◆現在、求道中の方々が、明確な救いの信仰に導かれますように
◆暑さが続く中、私たち家族の健康と生活のみ守りのため。子どもたちの将来の導きのために

- ◆複雑な極東アジアの国際情勢の中、台湾の政治や経済、治安が安定しますように
カンボジア(畠田縁乃)
◆11月23日〜12月21日までなされるカンボジア宣教活動に御心に沿う働きがなされ、地方教会の巡回旅行も守られますように
◆12月に完成予定の本部、教育館、宣教師館の建設が予定通り完成できるように
◆救霊の結実のため労する伝道者に御霊の満たしと真のキリストの御体が建設されるように
香港(鹿島)
◆一人ひとりに御言葉による靈的成長が与えられ、また新来会者が増えられますように
◆牧師夫妻の健康が守られ、香港と広州を往復する生活が支えられますように
◆香港と近隣地域での邦人伝道の働きが広がりますように
ケニア(畠田就子)
◆巡回の奉仕が祝されるように
◆テヌエック病院の働き人(ルカー10章2節) 特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように
グローバルユースミニストリー(畠田康毅・由理)
◆良い住居が備えられ11月に転居ができるように
◆左肩を手術した由理宣教師のリハビリを含め、宣教師の靈肉のため
◆定期集会に集うメンバーのため、特にディアスポラの青年層が増えられますように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

上手に葛藤する

院長 ● 河村 從彦

「主よ。いつまでですか。……主が私に良くしてくださいましたから」(詩篇一二・1、6)

教会でも葛藤はありえます。それは心の交流がある証拠で、全部が全部悪いわけではありません。何の活動もしないならば、だれも葛藤を感じることはないはず。葛藤は自己洞察の機会になります。よくないのは葛藤がないふりをする事です。正直に向き合ってください。自分とはどういう人間なのか、何を信じてきたのかを知ることが出来ます。そのとき信仰は「教えられたもの」から「自分のもの」になって行きます。

キリスト者の家庭で人格形成をしました。門前の小僧で、何かをやればいつの間にか仕切ります。自分の中では、それに何の疑問も感じず、変な風に葛藤していませんでした。「献身しない信仰」に立って送った大学生活、ある先生のひと言がきっかけで、それまでのことを一気にご破算してしまいました。ただただ未熟な葛藤に振り回されました。牧師になった頃、自分がまったく見えていなくて、教会に向き合うことに葛藤しました。日本を出て、あることで失敗、敗北感、罪責感とうつ状態の中で、藁にもす

がる思いでゼロからやり直そうと思いました。葛藤と混乱の中で体験的にわかったことがあります。傷はイエスさまの恵みが注がれる裂け目になること、恵みは行き詰まったときに向こうからやって来るものだということでした。葛藤の質が少し変わったかもしれません。その後、何度か新しい任地を頂きました。テーマもそれぞれで勉強の連続です。そのたびに葛藤する機会が与えられます。

上手に葛藤できたでしょうか。必ずしもそうではなかったと思います。しかし次のステップへの胎動だったことは間違いありません。神さまから次の宿題が来たらもう少し上手に葛藤したいと思えます。「先生は恵みを語るのですね」と言っていたとき、「そうです。失敗が多いだけです」と、葛藤した苦い思い出を振り返ります。



後期オリエンテーション 女子神学生

神学エッセー 預言書を読む ③

いまの私たちに



林 正弘

北イスラエル王国は紀元前722年に滅び、南ユダ王国も586年のエルサレム陥落を前後して、バビロン捕囚となりま。そこに至るまで、預言者たちは、主に立ち返るように警告を与えました。それは、審判が下される前に人々が聞かなければならぬメッセージでした。預言書を残した預言者たちの多くは、この時代に活躍しました。

預言者が活躍したもう一つの時期が、捕囚期と帰還後の国家再建期です。危機なのに警告に耳を傾けなかった捕囚前の人々への預言者の働きも困難を伴うものでしたが、人々に希望と意欲がなくなつたこの時期もまた、預言者にとつては大変な時でした。しかし、それだけに主からのメッセージが重要な時でもありました。捕囚の地に連れて行かれた神の民は絶望の中に置かれました。約束の地は契約の中心的なもので、そこから引き離されるとは、のろいを意味し、罪のために神さまか

ら捨てられた、と考えた人々に希望はありませんでした。時とともにバビロンでの生活にも慣れ、異教のなかでもそれなりに生きていくすべを身につけてくると、祖国への帰還を願う気持ちも薄れがちになりました。

それでも、帰還が許され、人々は何度かに分けてユダに戻り、神殿の再建に取り組みます。しかし、まもなく挫折してしまいます。ただでさえ大変な工事なのに、途中で投げ出してしまうと、再開はさらに困難になってしまいます。そのような時にハガイやゼカリヤが立てられました。やがて神殿は完成し、宗教活動もなされますが、期待したような劇的な救い、国家の独立などは起こりませんでした。すると人々は失望し、退廃的な雰囲気になっていきます。そこでマラキの預言がなされました。

私たちが預言書を読むとき、今の私たちにメッセージを受け取ることが出来ます。当時とは時代が違います。預言書に見るような預言者もいません。しかし、今も人々は、神さまから離れて滅びに向かっています。希望を失っている人たちがいます。それなりに安定した生活のなかで、神さまに期待せず、救いを求めない場合が少なくありません。だからこそ、預言書のメッセージは、現代にも必要です。時代を知り、人々への重荷を与えられ、その必要に届くために、預言書の学びに真剣に取り組みたいと思います。

◆後期の学びが始まって

スイッチをオフに！

正規コース4年 大谷のぞみ

「わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから。」

(ヨシユア記一章9節)

いつも神学院のために、尊いお祈りとサポートをいただいております。感謝申し上げます。

早いもので、インターン生になり半年がたちました。インターンも半ばにきたとき、自分の足りない部分を示され、それは、私が社会に出てからずっと指摘されている部分で、自分は成長していないことに気づいたとき、「このままで、遣わされていたら大変なことになる」とまた不安スイッチが入ってしまいました。そんな時、神さまの約束を信じるならばできること、神さまのために働くことを神さまが願ってくださること、神さまが全部成し遂げてくださることをもう一度語って下さいました。

神学生になって何度、不安スイッチがオンになったことでしょうか。

う。数え切れません。情けないことですが、でも、それ自体が悪いことではないと思います。問題は、そのスイッチをどうやってオフにするかです。それは、神さまの前に静まること、み言葉に耳を傾けること、み言葉を咀嚼することであることを経験させていただいています。

許されるならば、あと半年で、卒業し、遣わされていきます。きっと、これからも、不安スイッチがオンになることは数え切れないことだと思いますが、「わたしがつともにいるから、大丈夫！」と約束してくださる方に頼りながら進ませていただきます。

◆関東聖化大会の恵み

御霊によって歩むこと

正規コース4年 金成星美

「私たちは、御霊によって生きているのなら、御霊によって進むうではありませんか。」(ガラテヤ人への手紙五章25節)

主の御名を賛美します。いつも神学生のためにお祈りとご支援をありがとうございます。10月は毎年恒例のJHA関東聖化大会がありました。BTCの神学生はついに今年、会場ご奉仕の当番が回って来ました。4年に一度当番が

回って来るので、今回が最初で最後の奉仕でした。個人的にも、神学生として参加する最後の聖化大会でご奉仕できたのは、神さまからの大きな恵みでした。神学生として聖化大会に参加するようになって、初めは知らない方々ばかりに思えた集會も、年を追うごとに先生方やお世話になった教会の方々など顔見知りも増えました。特にJHAに関連する神学校が集まり、他校の神学生との交わりが持てた恵みは大きく、卒業後も折り励ましあえる仲間が多く与えられ感謝でした。

セミナーや聖会で石田先生から、「聖化とは聖霊の導きに信頼し、賛美と祈りに生きること」であるということ、また「聖なる者聖なる教会の究極目的は神の栄光を現すこと」であると語られ、きよめの理解が深まるとともに、こ



後期オリエンテーション 男子神学生

れから遣わされていく教会においてどうきよめを語り、どうきよめに生きるのかを改めて考える時間になりました。伝道者として歩む生涯には、神学生時代とは比べものにならないような試練と苦難があることを覚える時に不安と恐れがありました。パウロの歩みを通して語られたみことばと、神学生合同クワイアで「すべて主イエスの御手の中どんなことも恐れな」と宣言した賛美によって勇気と力を受けました。主の恵みに感謝です。卒業までの後半の歩みも、御霊によって進ませていただきましたと思います。

◆聖書神学院に導かれて

牧師への道へ 第二步

聴講生 西潟 証

中学3年生のときに参加したYSで第二コリント五・20「こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです」(新改訳第三版)が開かれ、そのメッセージで「この世の国々の大使はそれぞれ遣わされた国で堂々としているのに、なぜキリストの大使であるあなたたちは日々の生活の中で堂々としていないのですか?」と問われました。この問いとみことばは、YSが終わってから私の中に留まり

続けました。そして、そのキャンプが終わってから毎晩こう祈り始めました。「もし、あなたが私に牧師の道を用意しているのであれば、のならそれをはっきりと示してください」と。毎晩祈りました。しかし、祈っても祈っても、「キリストの使節」というみことばは心に残っているものの、特にはっきりとした示しがありませんでした。そのような祈りをしていながら、いろいろなところで献身についての話を聞き、献身とは牧師になることだけではなく、クリスチャンとして社会人になっても、教会に属し、主のために奉仕をすること、これも献身だということを感じました。このことをいろいろなところで聞いていくうちに、祈っても示しと与えられなかったので、私の献身は社会人になって教会で奉仕をすることなのではないかと思いはじめました。

しかし2012年10月1日、神さまから、幼い子どもたちに福音を宣べ伝えなさいとお言葉がありました。その日、私は牧師として献身をする決心を致しました。それからアメリカの聖書大学に4年半通い、卒業をしたのち日本に戻って通信でアメリカの神学校の授業を1年受け、主の導きによりこの10月よりBTCで聴講生として学びを始めることとなりました。主の進む道をこれからも主とともに歩んでゆく身でありたいと思います。(イムマヌエル深川教会出身)

私の神学生時代 二つの恵みを通して 16期生●小田 満



昭和16年5月、中国大陸の上海市で私は誕生しました。当時、現地に「ホーリネス大陸教会」があり、故松村導男先生が牧会し、私の父は会計役員でした。私の誕生に際し、故松村導男先生は「信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ」(使徒六・5)から「満」と命名して下さったそうです。

私は誕生後1週間あまり、41度の高熱にうなされ苦しんだそうです。両親は私の癒しのために、必死に祈り、医者が1本の解熱剤注射をした時、病気が快復したそうです。父によるとそれは「脳性小児麻痺」、母の記憶によると「日本脳膜炎」とのことでした。

戦後、西千葉に住み、電車で30分余の船橋駅近くのイムマヌエル船橋教会に通いました。高校時代のある日、使徒行伝二章32節の「我らはみなその証人なり」の聖句が心に留まり、その後の進路が定まりました。こうして大学卒業後、BTCに入寮を許されました。

さて、BTC時代二つの恵みがありました。第一は、「第二の恵みの経験」に与ったことです。2

年生のとき、丸ノ内中央教会が新橋の電気ビル会館大ホールを仮の集会所としていた頃、ある祈禱会の会場準備を終えて、ダニエル書を通読していました。三章25節に「私には火の中を縄を解かれて歩いている四人の者が見える」という部分を読んだ時、それまで明確な新生経験はありましたがものの、自分の中にある「世俗性」に對し「見ざる、聞かざる、言わざる」の禁欲の縄で自分を縛っていました。ところが、「縄目解けたら」のみことばによって、パラパラと自分の縄が解け落ちたのです。その日、「聖霊による自由」をしみじみ味わいました。寮に帰ると、一年先輩の方が「小田君、輝いてるね。俺はどうかな」と言っていて、ご自分の顔を鏡で見えています。その日が昨日の事の様に思われます。

BTCの恵みその二は、ある先生の敬虔なお姿と明快な説教に出会い、先生を模範とさせて頂いたことです。先生の言葉遣い、講壇上の態度、説教の明快さから溢れ出る敬虔さを見るにつけ、先生を模範として学院生活を励みましたが、しかし、たとえ外観の真似はできても、内面の真似はできないことを想いつつ、今もその先生と出会うさせて頂きましたことを感謝しています。

こうして伝道者生活も50年を超えましたが、学院時代の気持ちを大事にし、最後まで奉仕を全うさせていたただきたく願っております。

同窓生の近況

42期生

武蔵村山教会●岩上敬人



「聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように」(ローマ一五・13)

神学院を卒業して24年、神さまの恵みに支えられて、ここまで歩むことが許されました。現在は武蔵村山教会での奉仕に加え、聖宣神学院など4つの神学校で授業を担当しています。さまざまな教派・教団の神学生の方々と接する機会が多くあります。目を輝かせ、熱心に聖書の学びに取り組む神学生の姿を通して、日本の教会に素晴らしい希望があることを実感しています。

新改訳2017の翻訳編集作業にも携わる特権が与えられ、聖書信仰に立つ研究者の先生方と心を合わせ、生み出す働きを共にさせて頂きました。武蔵村山教会では聖書翻訳で受けた恵みの中からローマ書連講に取り組み、教会員の方々と福音の恵みを分かち合わせて頂いております。

自然災害が頻発する中で、支援活動にも携わらせていただきました。小さな奉仕を通して、主の手足となればと願っております。

神学院スタッフ…恵みの想起

卒業後の奉仕のために

女子寮監 河村みち

猛烈な暑い夏を越え、急激な温度差になかなか身体がついていけない状況の中ですが、後期に新しい神学生を迎え、次代を担われる方々に、神さまの期待を感じながら、日々を過ごさせて頂いております。

卒業されていく先生方のご奉仕が祝されていくことは、教会の祝福に繋がります。

ここでの学びとご訓練が、お一人おひとりにふさわしく提供されてゆきますように、卒業後のご奉仕での戸惑いや葛藤をできる限り減らし、教会の建て上げに従事できますようにと、祈りつつ労させて頂いております。

「……信仰と健全な良心を保ち、立派に戦い抜くためです。」(第一テモテ一・18)

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。9月の会計報告をさせていただきます。

9月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による「神学院サポート献金」
¥520,325

教会団体による「神学院献金」
¥526,605

合計 ¥1,046,930

その他の献金(一時・特別)
¥115,000

・振替：00230-0-10138

- ベテルハウスは、研修や講師の宿泊等に用いられ、秋以降、アラムナイ関連団体や学生団体からも使用の希望が寄せられています。
- ベテルハウスは使用要項を作成中です。いくつかのケースで使用していたながら、来春あたりにとりまとめを行う予定です。
- 後援会たより第4号秋号は礼拝ご出席の皆さまの数をお届けしました。ぜひお読みください。
- 後援会の創立70周年記念感謝献金は感謝の表明として、可能な範囲でお加わりください。
- 後援会では世話人のご推薦をお願いしています。
- 後援会は先月27日(土)、ベテルハウスを会場に関東4教区世話会を行いました。
- 営繕ボランティアのご奉仕にお加わりいただける方がありましたら徳竹信雄先生にご連絡ください。●神学院祈り会は6日(火)です。

学苑だより



公報

本部通達

「私たちは、この宝を土の器の中にに入れていきます。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものではないことが明らかになるためです。」

(Ⅱコリント四章7節)

先月10月は、当教団にとって第73回目の教団創立記念日、各地域で開催された聖化大会、宗教改革記念日などが含まれた、事の多い月の営みでした。各教会でも特別集会が多く営まれたことでしょう。

残り二か月となったこの年の営みですが、各々が土の器に注がれる主の測り知れない力によって生かされて、良き締めくくりを迎えることができるように、祈りつつ進ませていただきますしよ。

■本部

(各会議)

5日(月)

財務委員会 (予算書検討)

5日(月) 6日(火)

教団運営委員会

(予算書承認・責任役員会)

20日(火) 災害対策委員会

26日(月) 人権委員会

【お願い】

10月21日の教団創立記念日を覚えて、各教会においてその前後に創立記念礼拝を守り、また創立記念感謝献金を実施していただいたことと存じますが、その献金の本

部への送金をよろしく願っています。

■国内教会局

(会議)

5日(月)

国内教会局・運営委員会

〔11月に行なわれる聖会〕

◇沖繩聖会

3日(土) 4日(日)

講師・吉村和記師

会場・那覇教会

〔役員・リーダー研修会〕

23日(金・祝) 東関東・中国

〔教区関連〕

23日(金・祝)

九州教区CS教師講習会

〔JEA関連〕

22日(木) 24日(土)

第2回JEA日本青年伝道会議

『神の国マインドに生きる』

会場・OCC/山崎製パン総合

クリエーションセンター他

■世界宣教局

▽今月18日(日)は宣教聖日です。例年のように全国の教会に宣教ビデオをお届けいたします。礼拝、祈禱会、組会などで、ぜひご活用ください。また来年度の宣教コインシールもお送りします。『宣教コインシール』にもご協力いただくことで、宣教地の具体的な必要に応える「愛の泉プロジェクト」にご参加くださるようお願いいたします。

▽世界宣教局ホームページをご活用ください。

*最新の局、宣教地の情報を得ることができます。

*教報には紙面の都合上、掲載できない宣教地の祈禱課題も載っています。祈禱課題はダウンロードして印刷ができます。掲示したり、宣教祈禱会の資料として使えます。

▽宣教師の帰国報告の来年度以降の予定(詳細日程は未定)

*根廻恵子宣教師(ザンビア)

2019年9月中旬 2020年4月

*豊田常喜、恭子宣教師ご家族

(フィリピン) 2020年4月 2021年3月

〔IWF関連〕

▽今月13日(火)にはIWF理事

事会が本部で開催されます。教団代表、委員3名、在日のWGMとウエスレアンの宣教師たち、それぞれの団体の地域担当者がアメリカ、カンボジアから出席されます。IWFは今年で66年目になります。時代は変わりますが、今後も相互理解のもとで協力関係が継続されていくよう願っています。

▽10月に竿代照夫師は渡米し、WGM本部で持たれた理事会に出席されました。

▽IWF基金は、申請すればIWFの宣教師を教会に招くための支援、会堂の修理や改築費の融資に用いることができます。お問い合わせは委員の梅田登志枝師まで。

■聖言神学院

▽教会実習後期が始まりました。

竹内俊之兄(高津)

峯尾仰生兄(深川)

中尾敬一兄(大宮)

秋田郁美姉(日本フリーメソジ)

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇

OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

郵便振替 001107133609

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)

郵便振替 001107133609

9月15日(土)正午から

▽BTRCリトリート・冬の聖会

12月27日(木)夜から29日(土)

午前まで。夜の聖会は日本宣教会

の小坂嘉嗣先生。聖会は一般公開

▽信徒土曜講座の秋学期はこれからでも参加申込が可能です。「教会って何だろう?」(矢木良雄先生)は10月6日(土)開講、「続・聖書読解法」は12月15日開講です。

▽神学院祈り会は6日(火)、奨励は内山勝先生。

▽研修棟使用については、学務課(担当・馬場満子姉)までお問い合わせください。

▽後援会からのお知らせ

「後援会たより」第4号(秋号)が発行されました。礼拝後出席者の皆さまにお送りしています。ぜひお読みください。創立70周年記念感謝献金(2019年5月まで)は感謝の表明としてお加わりください。

各教会の世話人は70数教会からご推薦をいただいています。引き続きご推薦をお願い致します。1年更新で継続、引継ぎが可能です。

19日(月) アラムナイ臨時幹事会

■信徒局

〔壮年部〕

会場・中目黒教会

講師・丸山園子師(日本同盟教団習志野台キリスト教会)

今回はセミナーのみの開催です。

23日(金・祝) 四国壮年部大会

於・松山済美会館

■出版事業部

▽新改訳2017のバイブルミニ版が発売されました。出版部の販売は3500円です。出版部で取り扱いますので、ご注文ください。

▽「ひむなる」は品切れとなっています。再刷の予定はありません。

消息報告



▽高田教会は愛恵幼稚園の園舎建て替えを年内に行うことになりました。立て替え後は礼拝などの教会集会も新しい園舎で行います。

▽厚生委員会、牧師退職に関わる「相談窓口」担当の里村佳子姉は、以下の日程で上京され、お茶の水

か荻窪で面談が可能です。

11月10日(土)から11月13日(火) 12時まで

12月14日(金)から12月18日(火) 12時まで

退職前に、余裕をもって相談されることをお勧めします。介護・医療・年金等のご相談、全国の施設の紹介が可能です。面談を希望される関東圏の先生方は、事前にお申し込み下さい。0823(26)

8844(呉ベタニヤホーム)

教報PDFパスワード 4763